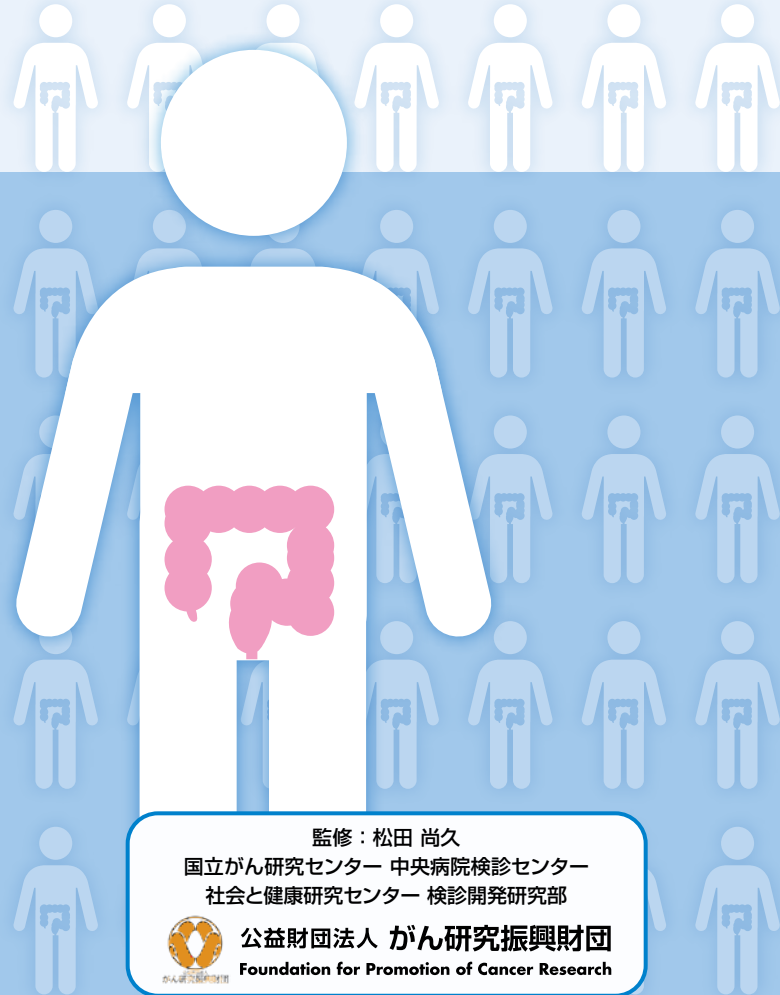


大腸がん

正しい知識と行動が
大腸がんからあなたを守る



監修：松田 尚久

国立がん研究センター 中央病院検診センター
社会と健康研究センター 検診開発研究部



公益財団法人 **がん研究振興財団**
Foundation for Promotion of Cancer Research

宝くじは、
みなさまの豊かな
暮らしに
役立っています。

宝くじは、図書館や動物園、学校や公園の整備をはじめ、
少子高齢化対策や災害に強い街づくりまで、
さまざまなかたちで、みなさまの暮らしに役立っています。



一般財団法人 日本宝くじ協会は、宝くじに関する調査研究や
公益法人等が行う社会に貢献する事業への助成を行っています。

一般財団法人 **日本宝くじ協会**
<http://jla-takarakuji.or.jp/>



発行 公益財団法人 がん研究振興財団

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-8 新京橋ビル5階
TEL.03-6228-7297 ホームページ <http://www.fpcr.or.jp/>

この冊子は、**宝くじ**の社会貢献広報事業として
助成を受け作成されたものです。



「大腸がん」ってどんな病気？

大腸(盲腸・結腸・直腸・肛門管)にできるがんです。

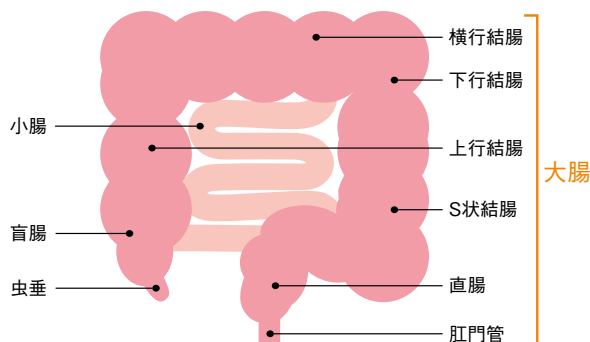
・・・はじめに・・・

がんは加齢にともない罹患するリスクが高くなります。高齢化時代の今日、2人に1人が生涯において一度はがんにかかるであろうと推計されており、がんは誰でも遭遇する可能性のある病気であるといえます。

日ごろからがんになりにくい生活習慣を心がけると同時に、万一自分や家族、親しい人ががんに向かい合うことになったときに備え、がんについての正しい知識を身につけておくことが大切です。

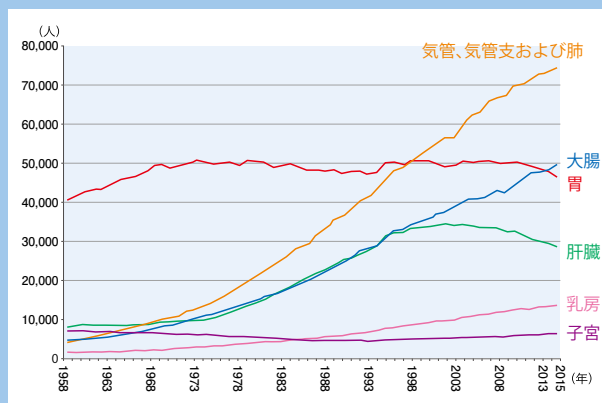


大腸がんができる部位



近年、大腸がんは急増しており、毎年5万人近い方が、命を落としています。特に女性では部位別死亡率のトップです。

がんの主な部位別死亡者数の年次推移



厚生労働省「2015年人口動態統計」より

まずは手軽にできる 便潜血検査！

大腸がんは、早期発見が大事です。しかし、初期段階では自覚症状がなく、症状が出てからでは遅いことが多いのです。

まずは手軽な「便潜血検査」を受けましょう！

大腸がんの検査

便の中に血液が混じっているかどうか2日分の便を検査します。(潜血が見つかるのは約7%(100人中7人)です。)

便は2日分採取します。
便の表面をこするだけなので、非常に簡単です。



1日目



2日目

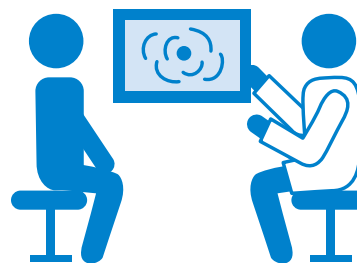
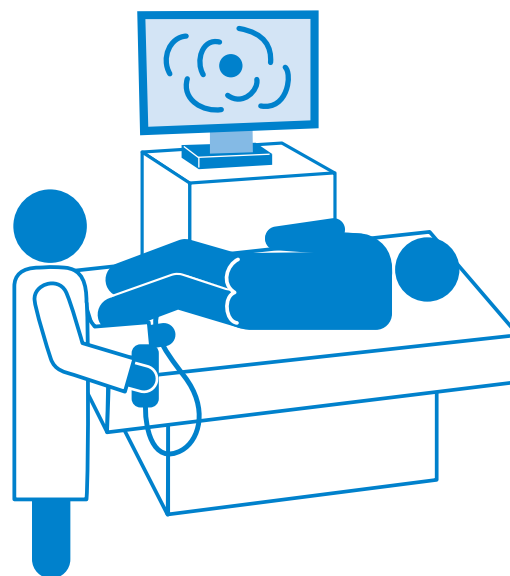


2日間の便潜血検査でいずれか1回でも「陽性」と判定された場合は、大腸がんの可能性があるので、そのまま放置せずに、早めに精密検査を受けましょう！

どんな精密検査を行うのですか？

精密検査として「大腸内視鏡検査」が推奨されます。内視鏡検査では大腸がん以外にも良性ポリープや炎症性腸疾患の診断が可能です。

内視鏡検査



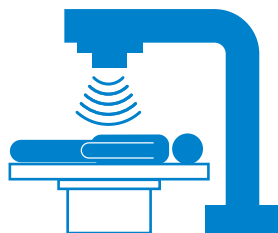
どんな治療法がありますか？

大腸がんの治療には、大きく分けると内視鏡による手術、外科的な手術、放射線療法、抗がん剤による化学療法があります。

内視鏡による手術



放射線療法



外科的な手術



抗がん剤による化学療法

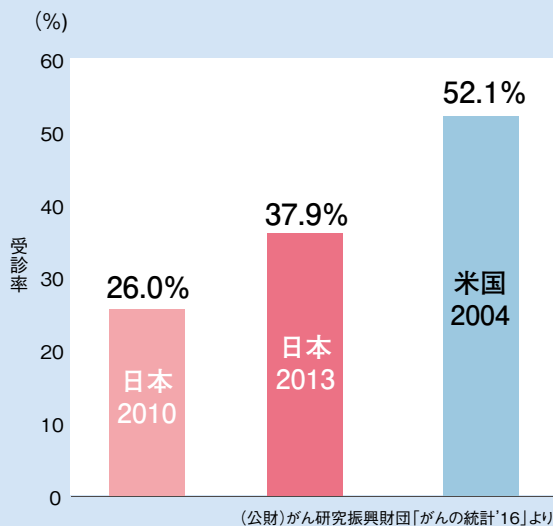


治療法は日々進化しています。病期によって適切な治療法が選択されます。

発症や再発の予防は可能です！

運動や食事などの生活習慣を見直すことで、大腸がんになるリスクを減らすことが可能です。また、定期的に検診を受けることで、もし、大腸がんが見つかって、早期に治療することで進行を抑え、再発を防ぐことができます。

大腸がん検診受診率



日本人の検診受診率は約40%に増加しましたが、米国には及んでいません。40歳になったら年に1回、大腸がん検診を受けましょう。

「大腸がん」を防ぐ方法はあるの？

大腸がんは検診で早期発見すれば9割以上の方が治ります。ライフスタイルをチェックし、がん予防に努めるとともに、血便などの症状に気がついたら早めの受診が早期発見につながります。

がんを防ぐための **新** 12か条

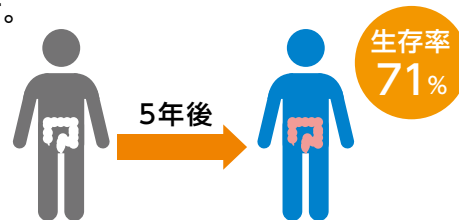
あなたのライフスタイルをチェック
そして今日からチェンジ！！

- 1条 たばこは吸わない
- 2条 他人のたばこの煙をできるだけ避ける
- 3条 お酒はほどほどに
- 4条 バランスのとれた食生活を
- 5条 塩辛い食品は控えめに
- 6条 野菜や果物は不足にならないように
- 7条 適度に運動
- 8条 適切な体重維持
- 9条 ウイルスや細菌の感染予防と治療
- 10条 定期的ながん検診を
- 11条 身体の異常に気がついたら、すぐに受診を
- 12条 正しいがん情報でがんを知ることから

おわりに

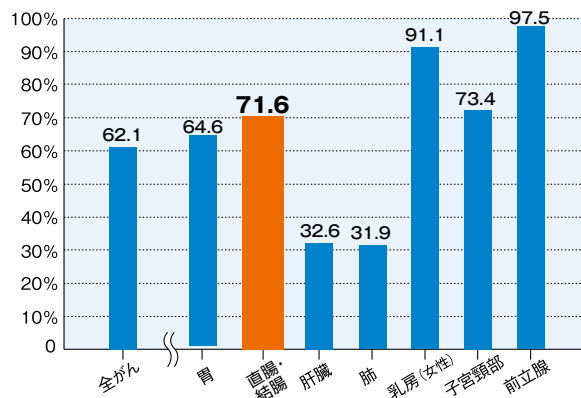
【がんは治る病気になりつつあります。】

地域がん登録における大腸がんと診断された患者の5年相対生存率は約71%（2006～2008年診断例）です。



【正しいがん情報でがんを知ることから】

地域がん登録における5年生存率 (2006～2008年診断例)



(公財)がん研究振興財団「がんの統計'16」より

がんは多数の要因が複雑に重なり合って、長い時間がかかって発生してくる病気です。

またこれさえ守れば絶対にがんにならないという方法也没有せん。

生活習慣における目標値は一つの目安と考え、今の生活をチェックし改善しましょう。

「がん」に関する情報はこちらから

聞きたい **がん相談支援センター**



全国の国指定の**がん診療連携拠点病院**などにある相談窓口でがんに関する治療や療養生活全般、地域の医療機関などについて、対面や電話で相談することができます。

どなたでもご利用できます。

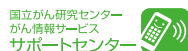
※病院、または、がん相談支援センターをお探しの場合は、こちらから
<http://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/>

※電話でもご案内いたします。

「がん情報サービスサポートセンター」電話：0570-02-3410（ナビダイヤル）

平日（土日・祝日を除く）10時～15時

※通料は発信者のご負担です。また、一部のIP電話からはご利用いただけません。



知りたい **がん情報サービス** <http://ganjoho.jp/>

『国立がん研究センター **ganjoho.jp** がん情報サービス』は、

国立がん研究センターがん対策情報センターのウェブサイトです。がんについて、がんとの向き合い方、診断・治療方法、緩和ケアについて、病院検索など、さまざまな情報を調べることができる“がん情報の入り口”です。



がん情報

検索

MEMO

大腸がんは自分や身近な人がかかる可能性の高い病気のひとつです。大腸がんを正しく知ることは、がんからあなたやあなたの大切な人を守る第一歩になります。

このパンフレットを読んで自分のからだや健康についてみんなで考えてみましょう。